

## 沖浦ダム『健康診断』に着手します

浅瀬石川ダムでは、東北技術事務所と合同により、本体建設着手から80年目、完成から71年目の「沖浦ダムの健康診断」に着手します。

浅瀬石川ダム上流の沖浦ダムは、昭和11年(1936年)に日本初の多目的ダムとして青森県により建設に着手され、昭和20年3月31日に完成しました。

完成から71年となる沖浦ダムですが、**本体建設に着手して80年**を迎えます。沖浦ダムは、戦前から戦中における日本の大規模土木工構造物の建設技術を知る上で非常に貴重な遺産と言えます。

そこで、浅瀬石川ダム管理所は、東北技術事務所と合同により沖浦ダムの健康診断を行います。

今回実施する調査としては、本格調査を行うために、試験的に沖浦ダムの堤体を削孔し、コンクリートを採取（パイロット調査）するものです。

今後、採取したコンクリートの状況から、本調査の位置を決定し、実施する予定です。

日 時：平成28年9月9日（金）9：00～13：00

場 所：沖浦ダム（別添函参照）

※：なお、台風13号の影響により大幅に貯水位が上昇した場合は、延期致します。

<<※発表記者會等 弘前記者会、黒石記者クラブ、津軽新報社>

問い合わせ先		
国土交通省	東北地方整備局	浅瀬石川ダム管理所
管理 所 長	栗 田 信 博	
管理 係 長	古 川 政 博	
電話：0172-54-8782 Fax：0172-54-8785		



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp/>)



沖浦ダム全景：平成28年9月5日撮影

## 9月9日の調査概要

◆本調査を行うために、事前に沖浦ダムの堤体を削孔し、コンクリートを採取します。

今回削孔し、採取したコンクリートから、本調査を行う際の削孔径や本数の決定を行います。

### ◆調査方法

#### ①削孔(コアリング)

沖浦ダム上流面から水平方向に、 $\phi 150\text{mm}$ の径で削孔(コアリング)により試料を採取します。

#### ②表面観察

採取したコンクリートの表面観察を行い、使用された粗骨材(石)の種類、最大寸法などを確認します。

#### ③中性化深さの測定

採取したコンクリートを使用し、表面からどの程度まで中性化しているか測定します。



### ◆今後の予定

本調査は約1ヶ月後を予定しております。



中性化深さの測定状況